

117年間、赤字なし。利回り5%の「隠れ優良企業」

リックス（7525.T）のビジネスモデルと非対称な投資妙味

Gemini Notebook

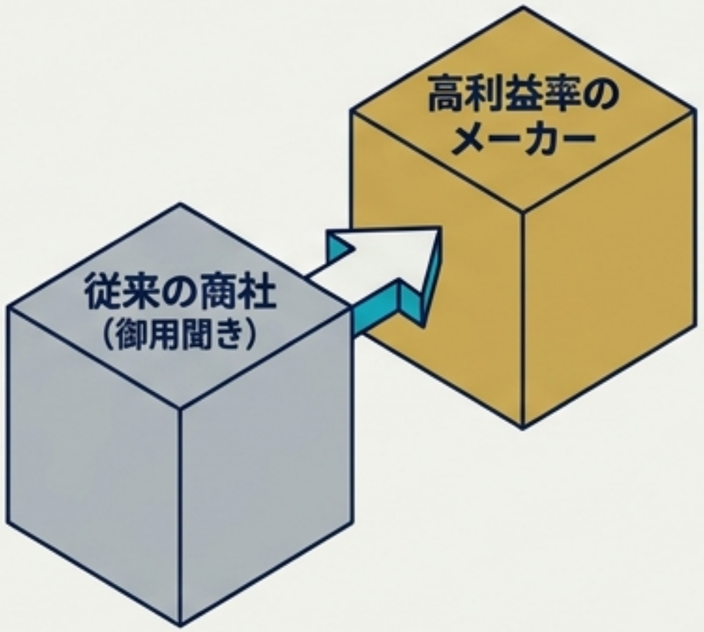
エグゼクティブ・サマリー：投資仮説ダッシュボード

圧倒的な下値不安のなさ
The Floor



時価総額: 約283億円
（自己資本ベースでの絶対的安定）

構造的進化
The Evolution



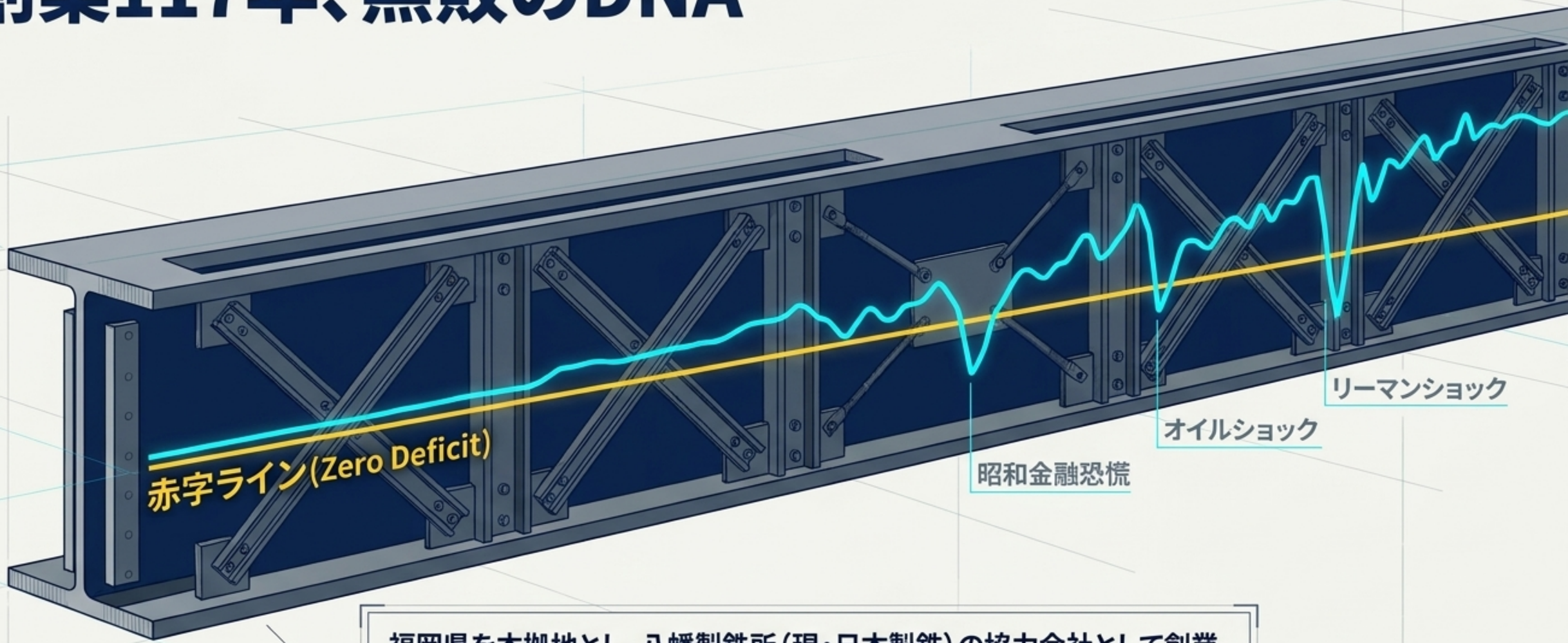
顕在化するカタリスト
The Catalysts

半導体・工作機械向けの
強烈な受注残高の急増
（最大300%超）

プライム市場維持に向けた
ROE/ROIC経営と、
強気なDOE配当政策

Gemini Notebook

創業117年、無敗のDNA

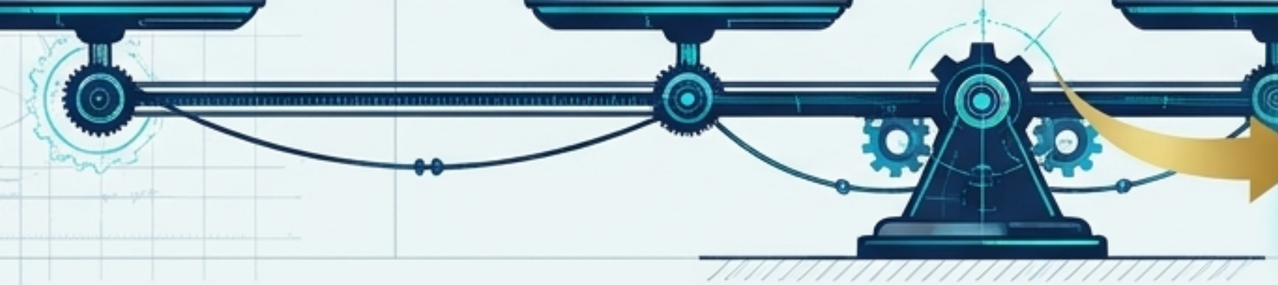


福岡県を本拠地とし、八幡製鉄所（現・日本製鉄）の協力会社として創業。
以来117年間、数々の経済危機や景気後退期を乗り越え、
一度も赤字に転落したことがないという驚異的な防衛力を持つ。

Gemini Notebook

鉄壁の盾：景気循環を相殺する「顧客分散ポートフォリオ」

重厚長大 (Heavy Industry)	自動車・機械 (Auto & Machinery)	先端テクノロジー (Tech & Semi)	生活インフラ・食品 (Stable / Food)
日本製鉄 (売上約10%)	トヨタ自動車 デンソー アイシン	キオクシア ソニー	サントリー
JFEスチール 神戸製鋼	ヤマザキマザック	ディスコ	日清食品 旭化成



「景気敏感株」と「ディフェンシブ株」の
顧客を両方抱えることで、
一方の不況を他方が吸収する自己ヘッジ構造。

Gemini Notebook

「御用聞き」から「イノベーター」への構造転換

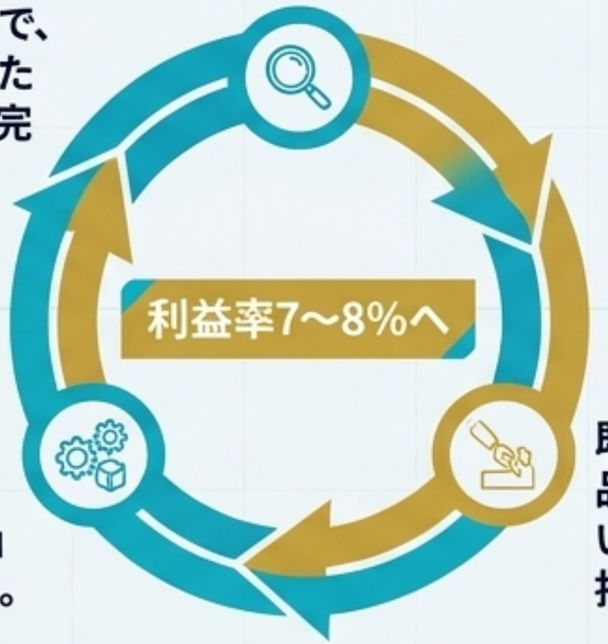
Evolutionary Flywheel

単なる商社（右から左へ）

利益率1〜2%

メーカー商社

117年の商社活動で、工場現場の「隠れたペイン（悩み）」を完璧に把握。



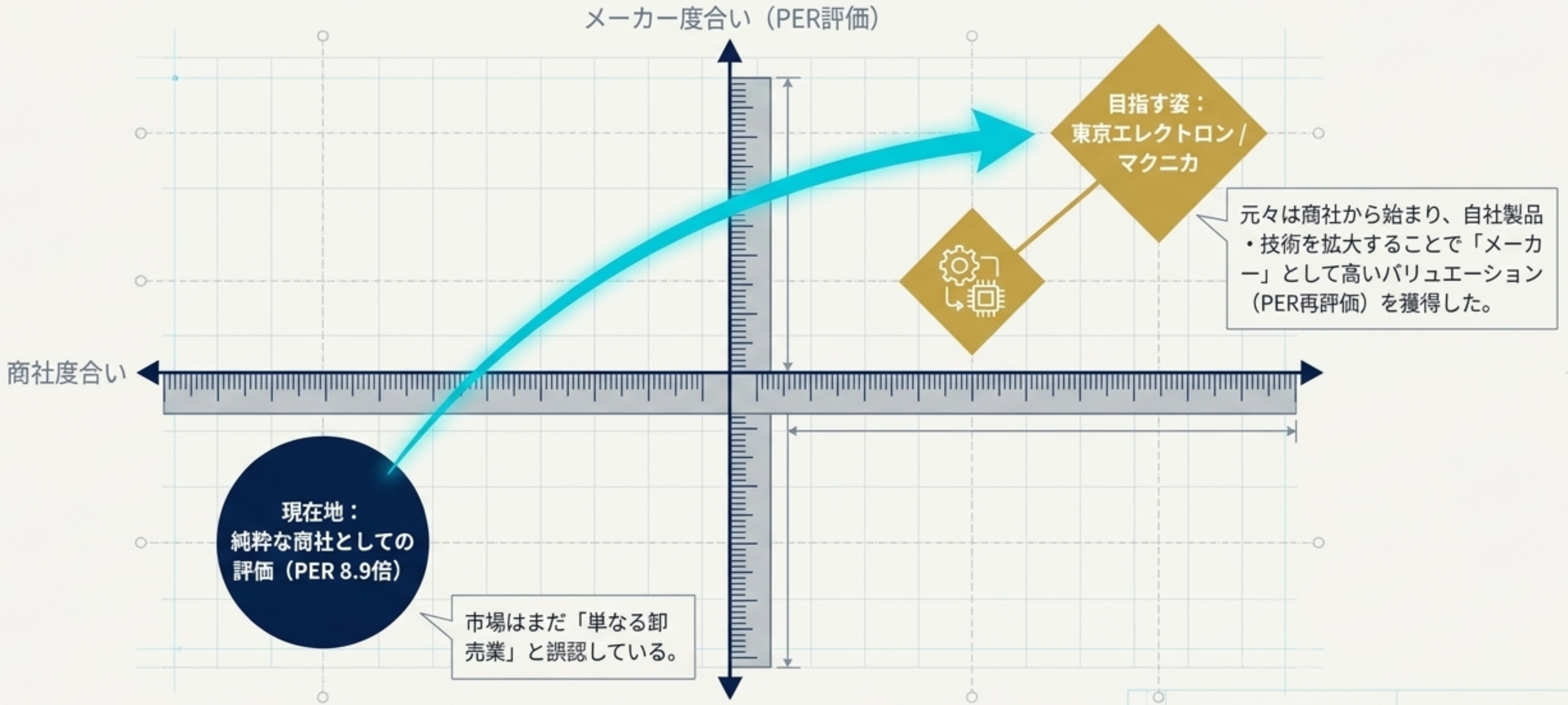
自社で研究開発（R&D）を行い「オリジナル製品」として高値で提供。

既存のメーカー製品では解決できないニッチな需要を抽出。

顧客のニーズを事前に知っているため、自社製品のヒット率が高く、高収益化（利益率向上）が確実に見込めるモデル。

Gemini Notebook

「商社ディスカウント」からの脱却と再評価ポテンシャル



リックスが「メーカー」として認知された瞬間、現在のバリュエーションは著しく割安な水準となる。

Gemini Notebook

現在地の直視：メーカー化への「ボトルネック」と対策

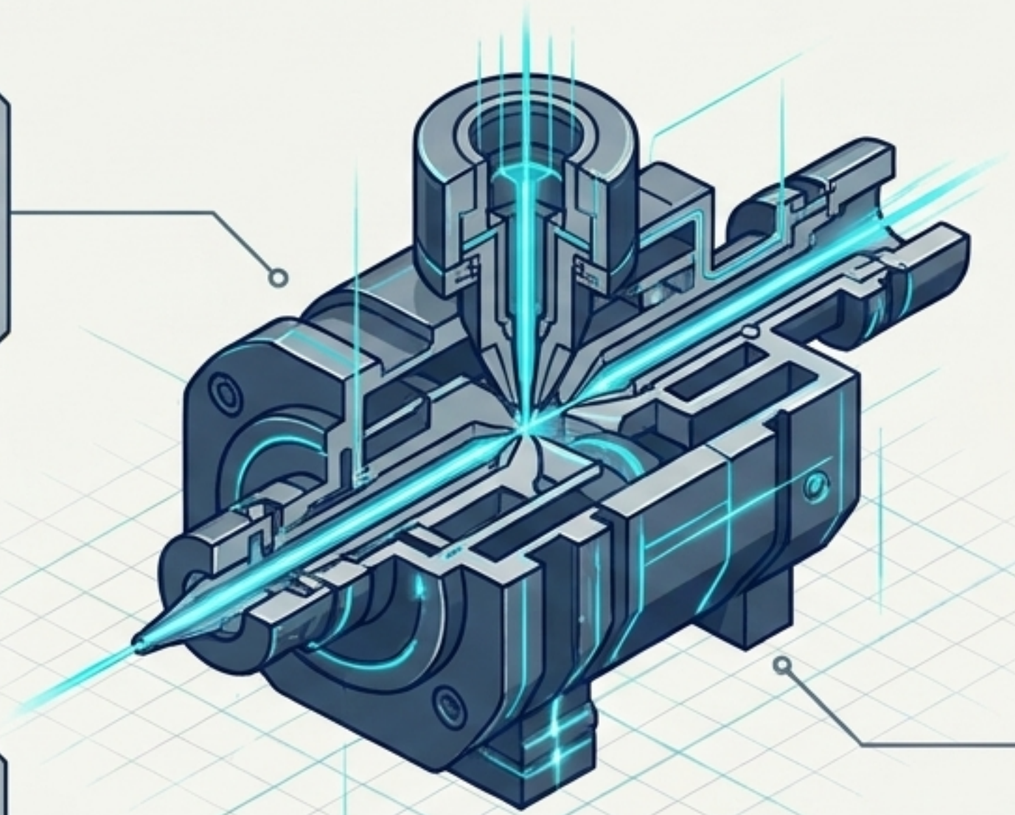


Gemini Notebook

隠れた技術的優位性：
世界が認める「メーカー」としての実力

インテル（Intel）との連携

インテルが主導する半導体関連銘柄のコンソーシアムに参画。商社出身の企業が製造装置向け部材メーカーとして入り込むのは極めて異例。



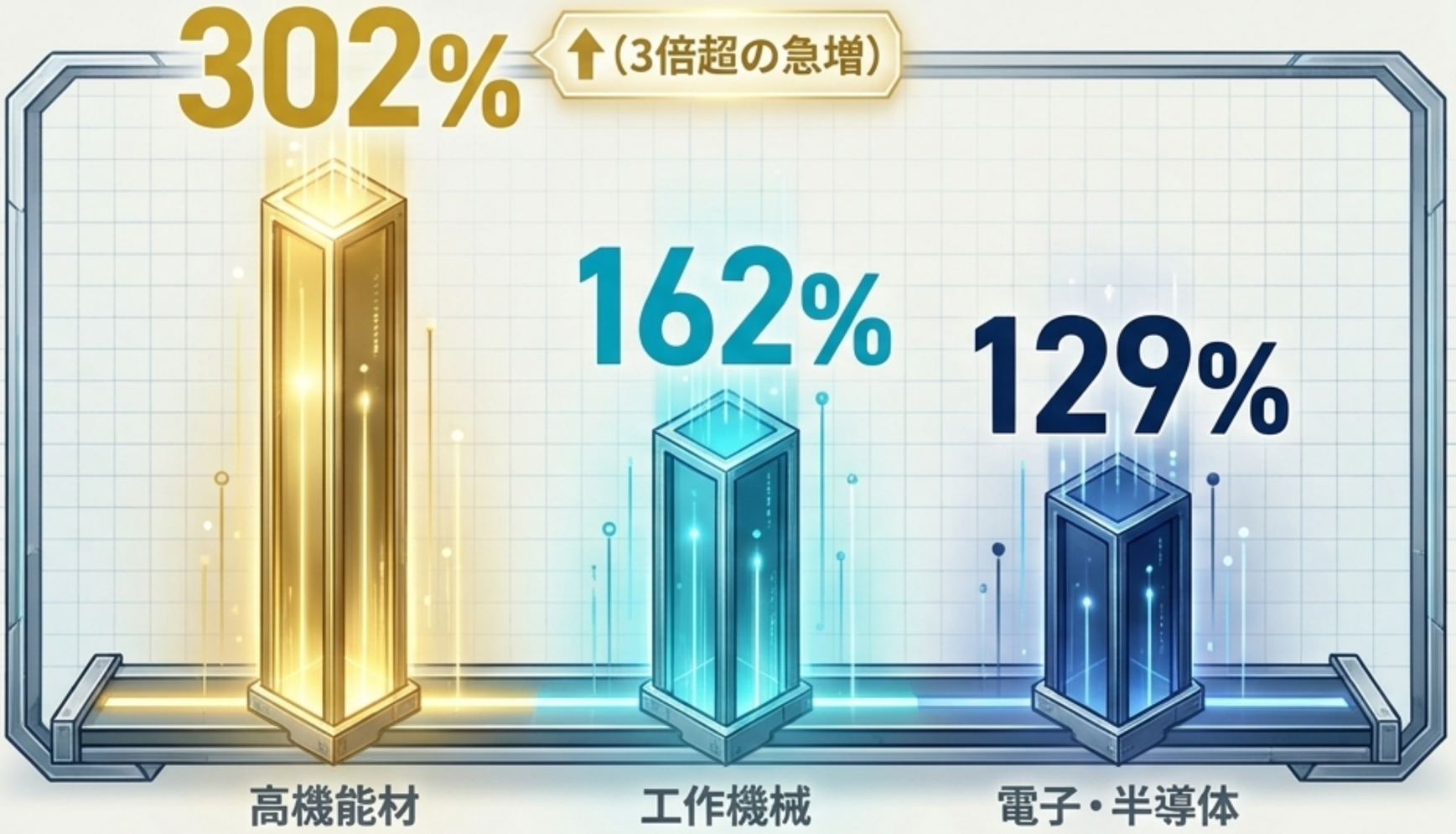
日本ものづくり大賞 優秀賞

「マイクロアイスジェット技術」による超精密洗浄技術の開発で表彰。ファブレスに近い形態でありながら、コア技術の特許と実力は既にトップクラス。

Gemini Notebook

爆発する受注残高：極めて高い短期業績のビジビリティ

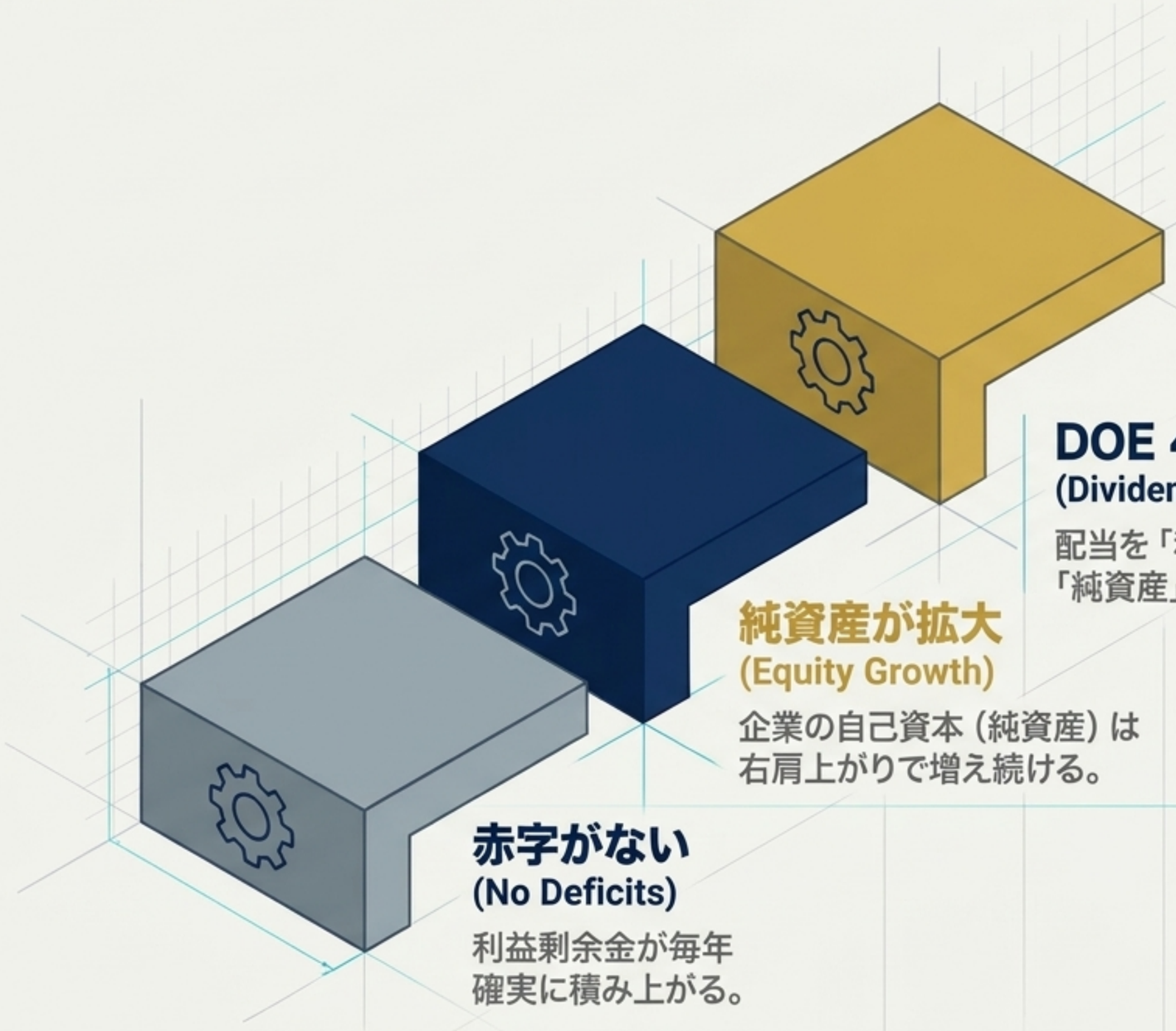
第1四半期
前年同期比
受注残高



受注残高は「未来の売上」の先行指標。11月11日に発表予定の第2四半期決算に向けて、
足元の業績好調はほぼ確定的であり、短中期の強力な株価推進力となる。

Gemini Notebook

資本配分エンジン：DOE 4.5%がもたらす「実質累進配当」



赤字がない
(No Deficits)

利益剰余金が毎年
確実に積み上がる。

純資産が拡大
(Equity Growth)

企業の自己資本（純資産）は
右肩上がりで増え続ける。

DOE 4.5%採用
(Dividend on Equity)

配当を「利益」ではなく
「純資産」に連動させる。

数学的に「減配なし・増配基調（実質累進配当）」を意味する。

Gemini Notebook

プライム市場残留への執念と、覚醒するIR戦略

MISSION：プライム市場の維持

現在の時価総額約283億円。
維持基準を下回らないための
死に物狂いの防衛線。

ROIC経営の導入

資本効率を意識し、PBR1倍割れの是正に本腰を入れる。

創業家による直接対話

創業家一族（安井氏）が前面に出た透明性の高いIR活動。

インフルエンサー・マーケティング

馬渕磨理子氏、ふうこ氏など、著名なYouTube投資
チャンネルへの積極的なスポンサード出演。

Gemini Notebook

診断マトリックス：想定されるリスクと「バリュートラップ」の罠



海外展開の苦戦

売上の10%未満。インド等での工場設立や展開において直近で減損を出すなど、グローバル成長には課題が残る。

顧客集中リスク

分散されているとはいえ、日本製鉄への売上依存度が依然として約10%を占める。

バリュートラップ（ハマキョウレックス症候群）

極めて地味な業態のため、市場の注目を集めるまで何年も割安なまま放置される可能性がある。成長へのスピード感には忍耐が必要。

Gemini Notebook

ポートフォリオの「アンカー（碇）」としての活用法



相場下落時の防波堤

AI銘柄などのハイテク株が乱高下する荒れ相場でも、業績が安定しているため株価の下値が極めて堅い。

待ち時間の報酬

「メーカーとしての再評価」や「半導体需要の顕在化」というカタリストを待つ間、確実性の高い約5%の配当を受け取り続けられる。

毎日株価をチェックするストレスから解放される、究極の「安定保有銘柄」。

Gemini Notebook

結論：堅牢なる事業設計図と、静かなる高収益化への胎動

[1] 117年赤字なしの絶対的防衛力 ×
DOE4.5%による実質累進配当（利回り約5%）。

[2] 単なる商社から、利益率の高い
「半導体・工作機械メーカー」への構造転換。

[3] プライム市場維持に向けた
経営陣の本気のIRと資本効率改善。



Next Catalyst: 11月11日 第2四半期決算発表。爆発的な受注残高がどこまで売上に寄与しているか、その「証明」の日に注目。

Gemini Notebook